

青少年育成活動支援モデル事業

現在の青少年は、自己肯定感や自尊感情が十分醸成されていないことや、コミュニケーション能力や自分の意見・主張を伝える能力の低下、体験活動や集団生活等の不足による規範意識や人間関係の希薄化、さらには国際感覚が乏しいなど様々な問題を抱えています。

これらを踏まえ、青少年育成茨城県民会議では、青少年自身が持つ育つ力を引き出し、社会全体で自立した青少年の育ちを支援するためのモデル事業に取り組む団体を公募しました。

応募のあった14の団体の中から選ばれ指定を受けた10団体では、このモデル事業を新規事業として取り組み、数多くの内容の青少年健全育成事業を実施しました。その一部を紹介します。

笠間市

岩間地区中高生による震災復興支援活動

青少年育成岩間地区市民の会

《事業のねらい》

中高生によるボランティアチームを結成し、東日本大震災の被災地支援に取り組む活動をとおり、自ら考え行動する力と社会に貢献しようとする意識の涵養を図る。



【避難所訪問】

《活動の内容》

実施期間 8月25日(木)～26日(金) (1泊2日)
支援チーム 笠間市立岩間中学校生徒24名 高校生(岩間中卒業生)5名 教諭5名 市民の会等8名 計42名

訪問先 石巻市立河南東中学校 河南地区避難所
山元町浅生原箱根仮設住宅

事前活動

- ①手作りプレゼントの作成(更生保護女性会の指導を受け濁沼シジミで作った鈴とメッセージカード)
- ②メッセージDVDの企画及び制作
- ③避難所及び仮設住宅に届ける地元産コシヒカリの精米・袋詰め等

支援活動1日目

- ①東日本大震災による被災状況勉強会
- ②石巻港周辺における被害状況視察
- ③河南東中学校との交流会、避難所訪問

支援活動2日目

山元町浅生原箱根仮設住宅訪問

事後活動

市長への報告、校内報告会、フォーラムの開催

《参加した青少年の声》

- この経験を通して、やっぱり私は人の役に立てる仕事が出来ると強く思った。
- この支援活動で、数え切れないほどの素晴らしい経験を得た。学んだことを今後は私自身が発信したいと考えている。



【仮設住宅訪問】

常陸大宮市

ふるさとに会いに行こう

～常陸大宮再発見プロジェクト～

青少年育成常陸大宮市民会議大宮支部

《事業のねらい》

地域の絆やふるさと「常陸大宮」の素晴らしさについて子どもたちと育成者が意識を共有できるようにする。また、子どもたちの創造力やコミュニケーション能力を高め、達成感や自己肯定感を味わえるように支援し、心身共に健やかな青少年の育成を図る。

《活動の内容》

＜プロジェクト委員会＞

実施回数 7回

内容 育成者と児童代表によるプロジェクト委員会を構成し、実施事業の企画運営に当たった。



【子どもと大人の委員会】

＜プロジェクト委員(児童)の声＞

- 緊張したが、自分たちの意見を真剣に聞いてくれたので、思い切って意見を言うことができた。
- 自分たちでできることは進んで申し出た。

＜祇園祭ってなあに？＞

実施日 7月16日(土)

参加者 児童・生徒31名 他20名 計51名

内容 地元の伝統的なお祭り「祇園祭」について、その起源や歴史的意義を甲神社の宮司さんや氏子会の方から聞いた。

＜参加した児童の声＞

- 私たちの町の神社が日光東照宮とつながっていることを誇りに思う。

＜民話の里を訪ねよう！＞

実施日 11月19日(土)

参加者 児童・生徒46名 育成者14名 計60名

内容 市内に残る民話や伝説にゆかりのある場所を訪ね、そこでお話を聞いた。

＜参加した児童の声＞

- 大宮にこんなにたくさん民話があるなんて知らなかった。



【神社での講義】